

こども食堂への挑戦

専修大学専用学生寮(白山)RA 一同

はじめに

私たちは専修大学専用学生寮（白山）の RA（レジデント・アシスタント）として、寮生のサポートやイベントの企画を通して、寮生の普段の生活を支えるとともに寮内の活性化を目的として日々主体的に活動をしています。本記事ではそんな私たちが中心となり、こども食堂～センディのおへや～に挑戦したことについてお伝えしていきたいと思います。

1.こども食堂を開催した動機と目的

私たちは 2023 年 4 月から RA としての活動を開始し、寮内環境の整備・維持、新入寮生の入寮対応や学部・学年の壁を越えた在寮生同士の交流など“寮内”での活動に力を入れて取り組んできました。そうして寮生間の交流が深まっていく中で、私たちは“寮内”だけではなく、地域貢献という形で“寮外”にも目を向け、地域を巻き込んだ活動ができないかと考え始めました。するとある日、私たちの寮がある文京区白山にはこども食堂が少ないという課題があることを耳にしました。地域と繋がるために自ら考え、行動することは私たちにとって初めての経験であり不安もありましたが、一部の寮生から「私たちの寮も社会とのつながりを持ち、地域に開かれた寮にしたい」との声が後押しになり、こども食堂の企画・実行に至りました。

本取り組みを企画した目的は、①私たちが普段生活している学生寮に「地域交流の場所」としての新たな価値を見出し、地域に開かれた寮を目指すこと②地域の子どもたちに食事を提供することで孤食の解消を目指すことにあります。

2.こども食堂の内容

私たちは学生寮でしか出来ないこども食堂とは何かを考え、当日は食事提供だけに留まらず、大学生との交流をする時間を「おたのしみルーム」として設けることにしました。「おたのしみルーム」の時間を設けたことで七夕飾り制作、トランプやジェンガなどのゲームを通して子どもたちは大学生と接する機会が得られ、「地域交流の場所」を目指すという目的の達成に近づいたと感じています。また、当日初めて顔を合わせる子どもたち同士の緊張を和らげることに成功しました。子どもだけでの参加もあり、一人で来た子どもでも誰かと一緒に食べられる環境を作るという点でも効果的でした。

おたのしみルームの後は普段私たちが食べている寮の食事を寮母さんが一部子ども向け

にアレンジしてくださり、参加して下さった 46 名全員に手作りの温かい料理を提供することができました。(高校生以上のお客様より 1 名 300 円いただきました。)

3.こども食堂開催に向けて

こども食堂の開催は、もちろん自分たちだけの力では実現できません。そのため、私たち RA が協力をお願いしたのが①寮の運営に携わる方、②地域を運営されている方、③共に生活する寮生のみなさんです。

まず、①の寮の運営に携わる方をお願いをしました。4 月末に企画を考えた私たちは、寮生の生活を最も身近に支えてくれる寮長寮母さんとこども食堂の企画趣旨や方向性を一致させ、毎月初旬に一か月の寮の方針を話し合う定期ミーティングにて寮を運営する共立メンテナンスさんに提案を行いました。すると共立メンテナンスさんから「会社として社会貢献事業を行いたいと考えていたので全面的に協力したい」との積極的なご意見をいただき、準備は本格的に進むことになりました。その後、7 月 2 日の開催までに何度もミーティングを重ねて、参加者の募集や備品の手配などにおいてご尽力いただきました。また、普段私たちの食事の材料を卸してくださっている新生食品株式会社様から子ども食堂の食材を無償でご提供いただいたり、大学からマスコットキャラクター「センディ」の名称使用の許可をいただいたりするなど、関係者から多くのご支援をいただきました。

次に、②の地域を運営されている方に周知、見学をお願いをしました。私たち RA はこども食堂の運営に携わったことがなかったので、地域でこども食堂を運営している方に依頼して実際にその様子を見せていただき、開催する際の参考にさせていただきました。また、開催の周知に当たっては近隣の小学校に作成したチラシを置かせてもらうほか、町内会長様に掲示板への張り出しをお願いしました。地域の皆さんがこども食堂の取り組みに共感してご協力いただけたことで、たくさんの参加者を集めることができたのだと思います。

最後に、③共に生活する寮生のみなさんに食事の提供と「おたのしみルーム」のボランティアをお願いしました。白山寮では一部の寮生さんが厨房バイターズとして厨房内でアルバイトをしており、寮母さんと一緒に毎日の朝・夕の食事を調理しています。そこで、こども食堂においても調理・提供をしてもらいました。また、おたのしみルームで七夕飾りやトランプなどのゲームを子どもたちと一緒に遊んでくれる寮生ボランティアを募集したところ、次々と手が挙がり、10 名の寮生が時間いっぱい全力で子どもたちと遊んでくれました。帰る際にはボランティアの寮生と別れるのが名残惜しい様子で、残してくれたメッセージには「○○ちゃんと遊べてたのしかった」というように寮生個人の名前が出てくるほどでした。

4.こども食堂を最大限に楽しんでもらうために

私たちは、こども食堂に来てくれた子どもたちを最大限に楽しんでもらうために、「誰でも楽しめるワクワク感」と「安全面での対策」を軸に企画を進めました。

今回のこども食堂では基本的に小学生の方を対象としていたので、「おたのしみルーム」では折り紙などを使った七夕飾りとジェンガなどのゲームを中心に行いました。ただ、企画段階で折り紙に抵抗を持つ小学生も多くいるのではないかと考えた私たちは、七夕飾りをタペストリー型にして吹き流しや笹などをふんだんに使うほか、少し難易度の高い折り紙を作ることによって特別感を出しました。その結果、小学校中学年の子も積極的に作っていて、完成した後は親御さんに自慢する姿が印象的でした。そして、食堂では子どもたちの好きなから揚げなどを使ったワクワク感のあるメニューを提供しました。食事を食べた方からは「七夕にちなんだメニューでよかった」「メニュー・ボリュームなど十分な内容でした。食堂の雰囲気も良かったです」と好評の声をいただきました。また、こども食堂には多くの子どもたちが参加してくれるということもあり、安全面での対策が特に重要でした。そこで、ミーティングでは何度もこども食堂の動線について検証しました。当日は会場のいたるところにスタッフを配置し、七夕飾りをつくる際にはハサミを使える場所を限定して目の届くところで使ってもらったり、道路に面している会場から子どもたちが外に出ることが無いようにしたりすることで、安全なこども食堂を実現しました。

5.開催にあたっての課題

こども食堂開催までの過程でたくさんのハプニングがありました。その中でも記憶に残っているハプニングがふたつあります。一つ目はこども食堂見学です。準備を進めていく過程で、こども食堂を自分たちで開催するイメージが湧かないという問題に直面しました。そこで白山寮で開催する前に、実際にこども食堂を見学させていただいて学ぼうと寮母さんからご提案をいただきました。当初は白山の近所である千駄木のこども食堂様を見学させていただく予定でしたが、当日運営をされている方が体調を崩され中止になりました。見学なしで実施になるかと思いましたが、以前から寮母さんと繋がりがあった社会福祉協議会の方のご尽力で小石川にあるおもてなし食堂様を見学させていただけることになりました。こちらは子どもから高齢の方までいろいろな方にお弁当(コロナ禍以前はその場での食事)を提供されていて、お弁当を受け取りに来られない方などにはご自宅までお届けしていました。取りにきた方とは和やかにお話をされていて、地域の人たちとの繋がりを大切にしていることがひしひしと伝わってきました。この見学を通して、こども食堂の開催をより鮮明にイメージできたのと同時に、開催への意欲が高まり、見学ができて本当に良かったです。社会福祉協議会の方のご尽力はもちろん、その方と寮母さんとの繋がり、見学を当日にも関わらず受け入れてくださったおもてなし食堂さんのおかげで実現したものでした。心から感謝しています。

二つ目は事前準備のときにおきたハプニングです。それはおたのしみルームで使用予定の、折り紙でつくる織姫・彦星の髪の毛や顔の部品が作り終わらないというものです。私たちが作ろうと考えていた織姫と彦星は複数のパーツから成るもので、全部を子どもたちが作るには難しいと判断したため、一部の部品は事前に自分たちで作っておくことにしていたのです。しかし、その数およそ各 20 個ほど。3 人で作るには時間が足りませんでした。そこで寮生皆が参加している LINE グループに「お時間がある方、折り紙の作成を手伝ってくれませんか？」というヘルプの LINE をしたところ、沢山の寮生さんが来てくださいました。私たちはどこかで、「当日は寮生さんを含め色々な方が手伝ってくださるのだからこうした準備は自分たちでやらなければ！」という気持ちがあったのだと思います。意を決して LINE した結果、「こども食堂当日は予定があっても手伝いできないけど今日は大丈夫だから！」と言って来てくれる方もいてとても救われました。

また、当日には 1 階のおたのしみルームから地下 1 階の食堂までご案内する人手が足りなかったり、スタッフ同士で連携が取りにくかったりしましたが、周りを見ながら人数の配置を変更したり、連携を取れるようにおたのしみルーム担当と食堂担当で LINE 通話を常に繋いでおくなど対処ができ、無事に終えることができました。

6. 当日来てくれたこどもたちや保護者様からの感想

こども食堂にお越しくくださった保護者様にアンケートを書かせていただきました。その項目の 1 つである全体的な感想の部分にはたくさんの嬉しいお言葉がありました。学生と遊べて楽しかった、良い企画だと思うなど…。たくさんのご意見をいただくことができたので、今後の開催に繋げていきたいです。

※アンケートの内容は資料にあります。

7. 今後の展望

今回こども食堂を実施しましたが、その中でいくつかの課題も見つかりました。そのひとつが建物の構造上、動線を確保しにくいことです。おたのしみルームがあるラウンジは玄関のある 1 階に、食堂は地下 1 階にあります。1 階には学生さんの靴箱や居室もあるため、私たちでご案内をしなければならず、そうすると移動がとても大変でした。そのため次回は食事のみの開催を考えています。ラウンジを使用しないため、玄関から入ってすぐ近くの階段を通して食堂に入ることができます。また、今回厨房バイターズとして参加してくださった方からは「子どもたちとかかわりが少なくて少し残念だった」というお言葉もあったのでその点も食事一本にすることで解消できると考えています。

また、こうしたこども食堂の開催だけでなく、私たち白山寮としてできる地域とのつながり方を本取り組み後も模索していきたいです。

8.感想

鈴木

当日の私たちの感想を一言にまとめると「大変だった」です。自分たちの計画通りに行かない事も多く、その度に悩み、正解が分からないまま進んでいくのは恐怖を感じると同時に苦しさもありました。また、当日におたのしみルームで子どもたちと遊んでくださったボランティアの寮生さん、食堂のキッチンで大量の食事を作ってくださった寮長・寮母さんと厨房バイターズの皆さんに多大なご負担をかけてしまい、感謝の念を抱くと同時に申し訳なさも感じていました。しかし、こども食堂が終了したあと、ボランティアの寮生さんから感想を伺ったところ、「楽しかった」「参加して良かった」と笑顔で沢山の方にいただきました。※後日文章でいただいた感想は全て資料に記載してあります。

また、来てくれた子どもたちやその保護者様からも嬉しいお言葉をたくさんいただき、「大変だった」では終わらず、開催して良かったと心から感じる事ができました。

また、開催するとなったとき、以前見たテレビのこども食堂特集を思い出しました。そのとき私ははじめてこども食堂の存在を知ったのですが、テレビに映っていた子どもたちの溢れんばかりの笑顔が忘れられませんでした。開催目的は地域の方々との繋がりをつくることや孤食の解消に少しでも貢献することですが、開催を決めたときに思い出したテレビで見た子どもたちの笑顔を私も、私たちも見たいという思いがありました。きっとこれが究極的な目的であり願いだったのだと思います。沢山の苦労があった活動でしたが子どもたちの笑顔が見られたこと。これだけで全てに意味があったのだと思います。

永井

今回のこども食堂は私たち RA の力だけでは実現できませんでした。寮長・寮母さん、共立メンテナンスさん、地域の方々や寮生さんなど多方面からのご協力があって、初めて実現できたのだと思います。大学訪問やおもてなし食堂さんへの見学、制作物の準備、当日の動き方などこども食堂当日に向けての課題は多々ありましたが、約二ヶ月間に渡る準備期間・定期的な mtg を重ねて当日に臨むことができました。こども食堂は初めての試みだったので不安でいっぱいでしたが、当日来てくださった方々からの感謝の言葉や子どもたちの楽しそうな姿を見て、達成感を得られました。

また、こども食堂開催は地域とのつながりを作るための第一歩であったと考えています。子どもたちや保護者様と話し地域の実情やニーズを知る良い機会にもなったため、それらを参考にして白山寮のこれからを考えていきたいです。

曽我部

今回のこども食堂は私にとって初めての経験で、当日の流れやスケジュール管理に加えて、普段子どもと接する機会のない私が子どもたちと遊んで満足してくれるのかと不安でした。最初は一緒に七夕飾りをつくっていた子が興奮して会場内を走り回るなどして混乱しましたが、時間が経つにつれて子どもたちとの距離が縮まり、一緒に作品を完成させることができたので安心しました。その子が完成した作品を「ゆうとくんと作った!」と自慢してくれたのが印象的で忘れられません。

そして、子どもたちと一緒にあそんだり、共に来てくださった親御さんから話を聞いたりする中で、子どもの普段の遊び場や学校の様子などについて教えてもらいました。こども食堂で遊びや食事の場を提供してただ満足してもらうのではなく、それを通じて私たちが地域の実情を知り、理解できたことが今回の企画の目的の一つである「地域との繋がりをつくる」という部分に大きく近づけたと感じています。

おわりに

こども食堂開催にあたりたくさんの方にご尽力いただきました。

- ・おへやカフェ Natchan
- ・おもてなし食堂
- ・指ヶ谷小学校ほか近隣の小学校
- ・社会福祉協議会
- ・新生食品株式会社
- ・専修大学
- ・町内会長ならびに町内会の皆さま
- ・白山東児童館
- ・文京区教育センター
- ・文京区児童担当民生委員
- ・寮生ボランティア

(五十音順・一部敬称を省略させていただきました)

この場を借りて厚く御礼申し上げます。私たちはこの経験を糧により良い寮を目指していきます。

こども食堂 ～センディのおへや～ 保護者様向けアンケート 回答結果 回

答者：ご来場いただいた保護者様計 18 名

1.今回ご利用されたものにチェックを入れてください。

(お子様のみの利用も含む)

☐ こども食堂(食事) →6 件 ☐ おたのしみルーム・こども食堂 →12 件

2.こども食堂の参加にあたって魅力を感じた点はなんですか？

- ・ 学生さんと接する事
- ・ 学生さんと接する機会があまりないので、こどもが喜ぶと思った
- ・ 学生さんと一緒に遊べた
- ・ 食事・スープ・デザートとバランスのよい食事が頂けたこと
- ・ スタッフの方の優しい対応が嬉しかったです
- ・ 食事準備や片付けがなく家では食べないものが出て他の人と同じ空間で食べられる事
- ・ 住んでいる場所の近くでの開催であった事
- ・ 開催場所（大学の寮）に興味があったこと
- ・ 季節がよかったこと
- ・ 値段が安く参加できるといった事
- ・ 地域のイベントという形で参加できるのがおもしろいところ
- ・ イベントと食事の組み合わせがめずらしかったです
- ・ こどもと年上のお兄さん・お姉さんとのふれあい
- ・ こどもが遊べる。ごはんが食べられる
- ・ みんなで食べられる
- ・ なかなか施設に入る機会がないので寮を見られて良かった
- ・ とてもおいしいお食事でした。ありがとうございます。助かります。
- ・ こどもが5人いるので、ご飯をたべさせてもらえてありがたかったです。また、待っている時でも、お兄さんお姉さんが遊んでくださってとても楽しんでいました
- ・ 大人も利用できる点

- ・ 普段、親子で食事する以外にいろいろな方と同じ食事で同じものを食べる事がないので。コロナが収束してもっとワイワイしながら食べたいです

▶食事をされた方)

3.本日の食事に関して、何かあればご記入ください。

(例：メニュー内容、ボリューム感など)

- ・ 美味しかったです！
- ・ こどもの好きなメニューで、こどもに丁度良い量でデザートもおいしかったです
- ・ どれもおいしかったです。寮も、満足です！
- ・ 食事の寮を減らしてもらったので良かったです
- ・ サラダに味がなかったのでこどもが食べなかった。少なめ
- ・ 普通・多めの量が選べると良かった
- ・ 特にありません。期待通りで満足です
- ・ 偏食が多い娘ですが、かなりの量を食べられました！美味しかったです
- ・ メニュー・ボリュームなど、十分な内容でした、食堂の雰囲気も良かったです
- ・ 美味しかったです。お腹がいっぱいです
- ・ 美味しかったです。ごちそうさまでした
- ・ 大食いなので少なかったです
- ・ チョコプリンがチョコ濃度高くて美味でした。他も全て美味しいです
- ・ メニューもボリュームもありました。中学生以上大人未満には少し物足りないかもしれせん
- ・ 中学生も大人と同じ寮でもよいかと
- ・ 寮はちょうど良かったです。チョコのデザートを食べた子は溶けてがっかりしていました

4.専修大学の学生との「おたのしみ一む」において、今後あったら良いと思う内容があればご記入ください。

- ・ 工作など教えてもらえていいと思います
- ・ 季節ごとの作品作り

- ・女の子がいるので、ヘアメイクなどこどもにしつつ教えて頂けたら嬉しいです
- ・こどもたちがとても楽しめたのでとても良かったです。少し身体を動かすことができた
らよいと思います
- ・場所もどこにいていいかわからず、どなたが学生さんなのかわからずでした。何度か来
てこどもを場所慣れさせたい
- ・大学で学んでいることとか学生さんならではのフィードバックがあれば面白いです
- ・小さい娘（男の子も）でもより楽しめるような...みんなで歌うとか、何かを見ると
か？！いろいろな世代を満足させるのは難しいですね
- ・みんなで一緒にできるゲームがあると良いと思いました。例えば「クイズ」
- ・大学クイズ、学業のお話など
- ・ボードゲーム
- ・カードゲーム
- ・寮ツアー
- ・次回も定期的に開いてほしい！フードパントリーもあると良い、こどもにお菓子など
- ・宿題補助をするコーナーがあるといいです
- ・宿題タイム・工作・トランプなど
- ・地域のおじいちゃん・おばあちゃんと、小さいお子さんの交流があるといいかも。大人の方と話
す機会は貴重だと思います

5.他のこども食堂を利用したことがありますか。

☐ない（今回が初めて）→12名 ☐ある →6名

▶5であると答えた方)

6.他のこども食堂と比較してみて、感じることをご記入ください。

(●●の部分で物足りなかった、●●の部分がセンディのおへやならでは良かったなど)

- ・メニューが充実しています
- ・皆様の至れり尽くせりには感謝です
- ・工作が苦手な子はどうすればいいのか
- ・プロジェクターなど子供が飽きないアニメなど流れていると親が助かります。

- ・お弁当で持ち帰りが選べると嬉しい
- ・品数が多くて彩りが良い！
- ・お楽しみがたくさんあって子供たちが楽しんでいました
- ・終わりがなかった

7.最後に、全体的なご感想やご意見があればご記入ください。

- ・子どもが楽しんでいてよかったです
- ・学生さんがとても優しく、こどももとても楽しんでいて満足です。ありがとうございました
- ・地域と繋がる良い機会だと思います。ありがとうございました！
- ・学生さんとのふれあいが本当に楽しかったです。ありがとうございました
- ・大学生の皆さんがとても優しくかったです。これから地元へぜひ飛び込んでくれたらと思います
- ・早く来ても、食事の案内が遅いとぐずってしまう可能性が高いので、予約の時点で、18-19、19-20と分けてもらいたい。もしくは、当日来る前にだいたいの食事時間をお知らせもらえれば、その時間に合わせて向かえるので、子供が「おなかすいたー」と我慢せずに済む。食べるだけでなく 子供が他の子と一緒にゆっくり遊べる場所はなかなかないので、また開催して欲しいです
- ・いろいろ体験できて、家族一同よい時間を過ごせました。ありがとうございました
- ・寮長寮母さん、RAを含めた全スタッフの皆さん、ありがとうございました！参加者の方々の笑顔の多さが満足度の高さを物語っていたかと。※娘といっぱい遊んでくれたみらいさん、ありがとう！
- ・初めての参加ですごく楽しかったです。地域イベントとしてはいい企画です
- ・楽しく遊べてよかったです。ありがとうございました！
- ・白山にもこども食堂があってよかった。またやってほしいです
- ・皆さん親切な方々でありがとうございます！
- ・また開催されるのを楽しみにしています
- ・ありがとうございました！
- ・きれいな場所で楽しく食事ができました。ありがとうございました
- ・今後、何かしらの形で協力できたらいいなと思います。何度も継続していただくことで、今回参加できなかった方にも機会を与えてもらえればと思います

こども食堂～センディのおへや～ 学生ボランティアさんからいただいた感想

回答者:当日参加していただいた学生ボランティアさん 6 名

※厨房で食事をつくってくださったボランティアさんからのそちらに関する感想には文の終わりに(厨房)としてあります。

1. 嬉しかったこと

- ・企画に興味を持って親子で参加してくださった方が思ったよりも多く、初めての試みでありながら次回を 期待する声も多くいただいたこと。地域とのつながりが生まれるきっかけにもなったと思う。 また、大学生との交流という点に通常の子ども食堂とも少し違った魅力を感じていただいたようで、学生寮 主体で行ったことの意味もあったと感じた。
- ・子供に慕ってもらえたこと、先輩たちと思い出が出来たこと。
- ・私は厨房にいたため直接はお聞き出来なかったですが、「とても楽しかった」「もう次回が待ち遠しい」 というお声があったようで頑張った甲斐があったなと思いました。(厨房)
- ・工作中、皆が楽しそうに笑っていたこと。楽しかったと言ってもらえたこと。
- ・子供たちが笑顔で楽しんでいる姿を見られたこと。
- ・小さいお子様や保護者の方々の笑顔が見られて、RA さん、協力者(厨房バイターズ)の寮生の努力が実った瞬間に立ち会えたことが何よりの収穫。

2. 大変だったこと

- ・様々な子供達が参加してくれたので賑やかだった反面、ヒートアップしやすく、メリハリをつけることが難しかった。さらに食事後の参加者の解散の流れが予定していたものよりも長引き、片付けに影響が出てしまったので進行上ある程度線引きをすることも求められた点。
- ・来場者が多く、厨房が忙しかったこと。(厨房)
- ・やはりいつも作っている食数の倍以上あったため、仕事はとても大変でした。(厨房)
- ・こどもに対しどのように接すればいいのかがわからず、慣れるまでに時間がかかったこと。
- ・子供、保護者に対応しながらのスタッフ同士の連携がうまくいかない部分があったこと。
- ・年が 10 歳以上離れた子供のペースに合わせることを模索した。

3. 学んだこと

- ・こちらから積極的に地域と関わる姿勢を示して行動に移すことの大切さ。 これまではこのような外部との企画がなかったにも関わらず、地域の方々には学生寮という存在に関心を寄せていただいていたようで、今回の活動で初めてそういった方々と直に触れ合うこと

ができたように思う。若者が集う大学というものがより身近な存在として地域に順応するためにも、学生寮はとてもいい窓口、また架け橋となれる場所なのではないかと感じた。

- ・目的が伝わっていない来場者の方がいるということ。想定より人数が多く対応が難しかったので、各家庭親ひとり子ひとりなど制限を設けるべきだったこと。

- ・大学生の自分たちでもボランティアを企画して実際に実行できるということが学べて 1 番良かったなと思いました。ボランティアと言うと少し硬いイメージですが地域や子供たちとの交流ができてとても楽しかったです。

- ・人に楽しんでもらうことの大変さ。こども達の元気の良さ。

- ・外部の方への接客の仕方。

- ・参加者としての心得。